

「主体的・対話的で深い学び」の 授業づくりのポイント

めあて



子供の学びの姿



教師の授業づくりのポイント



必要感のあるめあて(学習課題)をもつ。



- ・教師の「教えたこと」が子供の「学びたいこと」になるようにしましょう。
- ・子供の興味関心を高めたり、疑問を引き出したりするために、導入を工夫しましょう。

見通し



ゴールへの見通しをもって学習する。



- ・子供に問いかけたり選択できるようにしたりしながら、子供自身が学習の進め方を考えられるようにしましょう。(実態に応じて、子供が試行錯誤できる場面も作るように工夫しましょう。)

協働した学びの充実



個でじっくり考えたり、協働したりして学ぶ。



- ・個や集団の実態に応じて学びの過程を工夫し、意欲が持続できるようにしましょう。
- ・各教科の「見方・考え方」を意識して発問したり、子供の発言をつないだりしましょう。
- ・子供の思考を助けるために、学びの過程を板書に整理し、可視化しましょう。

まとめ



学習した内容をまとめる。



- ・子供の言葉を生かして、めあてに正対したまとめにしましょう。
- ・学習した内容を全員で共有し、その定着を図りましょう。

振り返り



学習したことを振り返る。



- ・子供が学びを捉え直し、自身の変容を自覚できるようにしましょう。
- ・何を振り返るのかを明確にし、時間を確保しましょう。

子供
が
主役!



学級経営の充実



西部教育事務所 HP【学校教育に関すること】

http://www.pref.saitama.lg.jp/g2202/gakuryokukoujou_jugyoukaizen/gakuryokukoujou_jugyoukaizen.html

2024年4月作成 西部教育事務所

～一人一人の子供を主語にする～

「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりの例として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点が参考になります。

※「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申) 中央教育審議会・令和3年1月

個別最適な学び

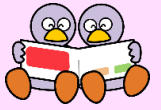


～多様な子供たちを誰一人
取り残すことなく育成する～
教師視点では「個に応じた指導」

●「指導の個別化」・・・学習内容の確実な定着
子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定ができないか？

●「学習の個性化」・・・学習を深め、広げる
子供一人一人に応じた(興味・関心・キャリア形成の方向性等)学習活動や学習課題に取り組む機会が提供できないか？

協働的な学び



～子供たちの多様な個性を
最大限に生かす～

異なる考え方が組み合わせたり、
よりよい学びを生み出せないか？

●一人一人のよい点・可能性を生かす

●多様な他者と協働

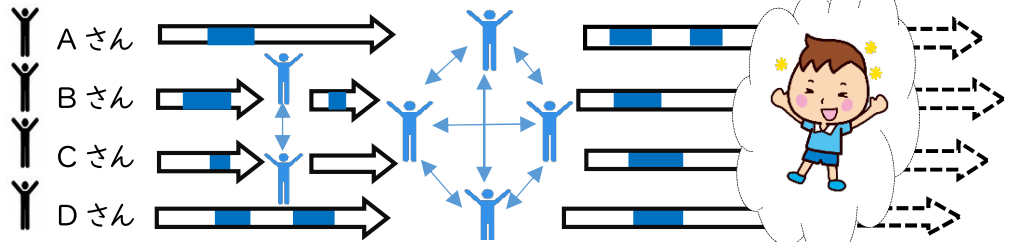
(クラスメイト、異学年・他校の子供、地域の人、専門家など)

一体的な充実



主体的・対話的で深い学び

「個別最適な学び」
と
「協働的な学び」
イメージ



学習の過程→

※本リーフレットにおける青色箇所は、「教師の支援・手立て」を表します。



【一人一人を主語にするための支援・手立て】

- 子供同士の考えをつなぐ(ファシリテーション)
- 「見方・考え方」を働かせるための発問
- ICTの新たな可能性を指導に生かす(クラウドを最大限に活用) etc.



具体的な
支援・手立て
(ヒント)

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり12のポイント

※項目のみ列挙

- ①教室環境1「場の構造化」
- ②教室環境2「刺激への配慮」
- ③ルール確立(手順や工程)
- ④生活の見通し
- ⑤授業の見通し
- ⑥授業の組み立て
- ⑦板書の工夫
- ⑧集中・注目のさせ方
- ⑨指示の出し方
- ⑩参加の促進
- ⑪個人差への配慮
- ⑫学級モラルの形成



【⑩参加の促進】の例

- 多様な学習スタイル(学び合い等)を取り入れる
- 児童生徒の興味関心を活かす(学習意欲を高める)
- 目的や「めあて」を明確にする
- 教材教具の工夫
- ヒントカードを活用する etc.

【⑪個人差への配慮】の例

- 児童生徒個々の能力や適性に応じた課題を設定する
- 学習進度の違いへ配慮する(課題への取組が早い子と遅い子への配慮)
- 自分で選べる教材教具
- 書くことが苦手な児童生徒への支援 etc.



【詳細】ユニバーサルデザイン12のポイント(埼玉県立総合教育センター) ↑